

論文または  
報告と記載

1字あける

ゴシック体, 14pt

上辺のマージン 25mm

論文 ○日本コンクリート工学年次大会 2010 さいたま大会の和文原稿にお

○○○る特に注意する点

2行目は、4文字目から書き始める

左右のマージン 22mm

2字あける

南谷 伝蔵\*1・乗鞍 英磨\*2・鞍乗 麻苺\*3

中黒点「・」で区切る

2字あける

「見出し」のみゴシック体

要旨：論文を作成する上で、特に注意していただきたいレイアウトやフォントについて記述しています。句読点はカンマ「,」と句点「。」を使用すること。要旨は4~6行、キーワードは1行以内とし、「要旨:」、「キーワード:」の見出しは、ゴシック体を使用すること。図・表・写真のタイトルならびに本文中に引用する場合のフォントは、ゴシック体(和文の場合)、Times, Times New Romanの太字(英文の場合)を使用すること。参考文献のフォントの大きさは、本文と同じ9ポイントを使用すること。なお、詳細については、執筆要領をご参照ください。

要旨は、4行以上6行以内

キーワード： 定着鉄筋, 載荷速度, ひび割れ

本文の句読点は、カンマ「,」と句点「。」を使用

### 1. はじめに

原稿は、A4サイズ横書き 25字×47行×2段組、余白は上25mm、下20mm、左22mm、右22mmに指定して作成する。フォントの大きさは9ポイント、色は黒字、句読点はカンマ「,」と句点「。」を使用すること。

$$y = a \cdot x^2 + b \cdot x + c \quad (1)$$

特に注意する

章・節・項の「見出し」はゴシック体

### 2. 原稿の書式について

各章の上段は1行あける

#### 2.1 題目・著者名・要旨・キーワード

##### (1) 論文・報告の種別と題目

論文・報告の種別を第1ページ1行目に左寄せで記入し、その後1文字あけて題目を記載する。題目が1行に収まらない場合は、2行目の左から4文字目から書き始めること。

##### (2) 要旨およびキーワード

要旨とキーワードは1段組みとし、見出しの「要旨:」、「キーワード:」のみゴシック体で記載する。このとき、左右両端を2文字ずつあける。

#### 2.2 章・節・項の見出しについて

各章の見出しの上側は、1行あける。章・節の見出しは左端から、項の見出しは1文字あけてから書き出す。「章・節・項」の見出しのフォントは、ゴシックとし、大きさは9ポイントとすること。

各章の上段は1行あける

### 3. 数式・単位・図表について

各節・項の上段は詰める

#### 3.1 数式

極力簡潔にまとめ、式は3文字空けてから書き始める。式番号は(1), (2), (3)とし、式の最後に右寄せにして記す。文中での呼称は、式(1), 式(2)とする。表記例を以下の式(1)に示す。

### 3.2 図・表・写真について

#### (1) タイトル

図・表・写真のタイトルおよび文章中に引用する場合のフォントは、和文で明記する場合はゴシック体(図-1)とし、英文で明記する場合はTimes New Roman太文字(Fig.1)で統一すること。

#### (2) 配置

図・表・写真は、本文に近いところに配置し、ページ幅一杯にならない図・表は右側に寄せて配置すること。また、参考文献の後(文末)には配置しないこと。

なお、本文と区別できるように、番号・タイトルを含む領域の上下を本文から1行以上あけること。

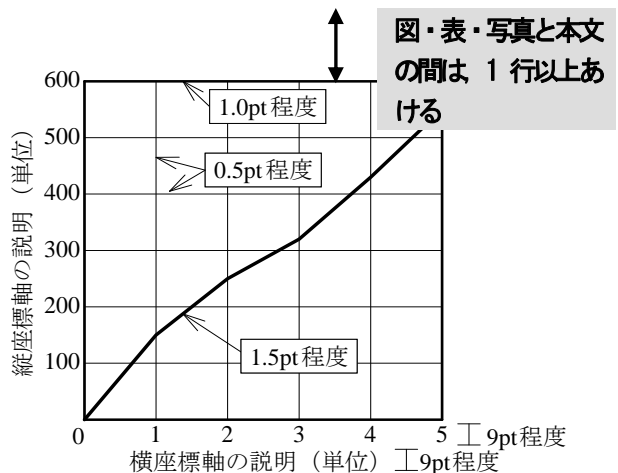


図-1 図の良い例と作図参考寸法

書式は2段組・25字・47行、フォントの大きさは9pt

\*1 城北大学 工学部土木工学科助教授 工博 (正会員)

\*2 東西建設(株) 建設事業本部設計課長 工修 (正会員)

\*3 南北コンサルタント(株) 第一設計部 (正会員)

下辺のマージン 20mm

実線を引く

和文タイトルはゴシック体  
英文タイトルはTimes New Romanの太字

表のタイトルは表の上に、図・写真の  
タイトルは下に記載する

和文タイトルはゴシック体、英文タイ  
トルはTimes New Romanの太文字

表-1 表の作成例

| 組骨材の<br>最大寸法<br>(mm) | スランブ<br>(cm) | 水セメン<br>ト比<br>(%) | 空気量<br>(%) | 細骨材率<br>(%) | 単位量 (kg/m <sup>3</sup> ) |           |          |          |          |
|----------------------|--------------|-------------------|------------|-------------|--------------------------|-----------|----------|----------|----------|
|                      |              |                   |            |             | 水<br>W                   | セメント<br>C | 細骨材<br>S | 粗骨材<br>G | 混和剤<br>A |
| 20                   | 8            | 47                | 4          | 35          | 150                      | 319       | 650      | 1217     | 0.798    |
| 30                   | 8            | 44                | 4          | 34          | 152                      | 334       | 636      | 1214     | 0.834    |
| 40                   | 8            | 44                | 4          | 34          | 153                      | 348       | 621      | 1210     | 0.870    |

章・節・項の「見出し」はゴシック体

図・表・写真と本文との間は、1行以上あける

4. 参考文献について

4.1 参考文献

参考文献は、投稿時に既発表のものに限る。また、参  
考文献に記載した文献は、本文で必ず引用すること。

参考文献の見出し、「結論」あるいは「まとめ」の後  
にゴシック体の参考文献と明記し、フォントの大きさは  
9ポイントとすること。

参考とした文献名のフォントは、明朝体、Times New  
Roman とし、大きさは9ポイントとする。また、使用順  
に 1), 2) のように番号をふり、まとめて掲げること。

文献番号は、本文中または引用した図・表・写真のタ  
イトルの最後に、上付数字で<sup>1),2),3)</sup>・・・のように明記し  
ておくこと。

参考文献は文末に記載し、左・右の段を揃えて書き終  
えるように原稿を作成すること。

4.2 記載方法

(1) 論文等の場合

著者名：題名、誌名、Vol., No., 掲載ページ、発行年  
月の順とする。

(2) 単行本の場合

著（編）者名：書名、発行所名、掲載ページ、発行年  
月の順とする。

(3) 著者名

和文文献の著者名は必ずフルネームを記す。連名者が  
多い場合には、筆頭著者以外を「ほか」と省略してもよ  
い。

欧文文献の著者名は、姓を先に記し、名はカンマの後  
にイニシャルで示す。連名者が多い場合には、筆頭著者  
以外を「et al.」として省略してもよい。

(4) 発行年月

和文文献の場合、西暦に統一して、1988.11, 1991.2 の  
ように記す。欧文文献では、Nov.1988, Feb.1991 のよう  
に記す。

「見出し」のみゴシック体、大きさは9pt

参考文献（記載例）

- 1) 小林一輔, 魚本健人, 嶋 文雄: コンクリート混和  
材としての高炉水砕スラグ粉末の品質がコンクリ  
ートの圧縮強度ならびに乾燥収縮に及ぼす影響, コ  
ンクリート工学, Vol.17, No.5, pp.87-95, 1979.5
- 2) 森田司郎ほか: RC 外部柱・梁接合部の耐力と変形  
性状, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.9, No.2,  
pp.175-180, 1987.6
- 3) 岡田 清, 六車 熙編: コンクリート・ハンドブ  
ック, 朝倉書店, 1981
- 4) Malhotra, V. M.: Superplasticized Fly Ash Concrete for  
Structural Applications, Concrete International, Vol.8,  
No.12, pp.28-31, Dec.1986
- 5) Collins, M. P. and Mitchell, D.: Shear and Torsion  
Design of Prestressed and Non- Prestressed Concrete  
Beams, PCI Journal, Vol.25, No.5, pp.32-100,  
Sep./Oct.1980

- ・本文の文末は、左・右の段を揃えて書き終えること。
- ・参考文献の後に、図・表・写真等を配置しないこと。
- ・本文の長さは、5 ページ目の 30 行以上、6 ページ以内とすること。

参考とした文献名の  
フォントは、明朝  
体・Times New Roman,  
大きさは、9pt とする